

1. 調査報告概要表

作成日 2008年7月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2172600625
法人名	社会福祉法人 新生会
事業所名	グループホーム 弥生
所在地 (電話番号)	〒503-2406 岐阜県揖斐郡池田町宮地 1175番地 (電話) 0585-45-0760
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1はしま福祉サポートセンター内
訪問調査日	平成20年6月26日

【情報提供票より】(20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 25 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤 5 人, 非常勤 11 人, 常勤換算	7.07 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート・鉄骨・木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	108,000 円	その他の経費(月額)	38,500 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 600,000円 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.7 歳	最低	82 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村千賀子医院、 香田歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、池田町の北西部の高台にあり、濃尾平野を一望でき、その雄大さは、利用者の心を和ませている。また、近くに桜の名所があり、ホームの梅畑、花畑、野菜畑等、自然環境に恵まれたところに建っている。ホーム内は、プライベートを大切に空間づくりとなっていて4箇所ものトイレ、仲間同士や一人にもなれるソファや椅子等の設置、更に、誰でも行き来できる併設のデイサービス等、利用者や家族にとって豊かな暮らしの出来る配慮がある。スタッフは、ケアの経験者が多く、また、代表者や施設長がケアの向上に前向きである。そのために職員教育には特に力を入れている。計画的で段階的な教育計画のもとで職員全員に様々な研修会の機会を活かし技術や接遇の向上に努めている。また、地域住民との交流についても利用者が地域の中でその人らしく暮らせることとし、ホームを地域に開放した上で、町や地域自治会の行事の参加、保育園や小学生との交流、ボランティアの受け入れ等積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果を、職員全員に説明し、改善項目は、改善計画を作成し、改善目標や目標の期間等を定めて取り組みをしている。施設のたよりをもっと広く地域に発信することについては、プライバシー等家族に了承を得ながら、配布している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>以前から職員全員で自己評価に取り組んでおり、職員一人ひとりが、自己評価を通しての気付きや振り返りを、更にサービスの質の向上に繋げている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回、定期的で開催している。メンバーは家族の代表者、民生委員、地域の自治会長、地域包括支援センター等で、毎回、活発な意見が交わされている。近々は、地域住民との交流を更に深めるため、ホームの位置や環境を踏まえた議論に移っており、利用者の地域への参加やホームの開放に伴う、地域住民の利用等を働きかけている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居時に、意見や苦情を述べる窓口の設置等を分かりやすく説明している。また、職員全員が、家族等の面会時を捉え、いろいろな話し合いをする中で、不満や苦情、意見を聞きだすよう心がけている。更に家族交流会から出てきた意見や要望は、職員で話し合い、出来るものは直ぐにやるようにし、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域密着型サービス制度を実施していくため、利用者も地域の一員として、地域の方たちとのつながりを大切にしている。町や地域自治会が開催する行事等に積極的に参加し、地域住民との協調を深めている。また、保育園や小学生との交流も盛んで、散歩や喫茶店、スーパーでの買い物時でも、地域の人々と馴染みの関係が出来つつある。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の他に、ホーム独自のモットーを作っている。双方とも、利用者の尊厳を尊重し、利用者本位、利用者が日々楽しく暮らしていくこと及び地域住民との交流を大切にしている内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設長や管理者は、会議やミーティング時に理念やモットーを繰り返し指導しており、職員全員が理念やモットーを口にする事が出来、それらに沿った支援を行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に併設するデイサービスに出かけ、通ってくる地域の人々との交流を自然な形で出来ている。保育園や小学校とも交流が盛んで、他に老人クラブやボランティアの訪問も多い。また、町や地域自治会が行う行事にも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長や管理者は、評価の意義や目的等を全職員に説明し理解した上で、全員で自己評価の作成を行なっている。また、外部評価にも積極的、且つ協力的である。評価結果は職員全員で検討し、指摘された項目については改善計画を作成し、素早く改善に向けた取り組みをしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に行なっている。会議では家族の代表や民生委員、地域の自治会長や包括支援センター等、各方面からの意見や提言が活発に交わされている。また、出てきた意見や要望等は施設運営に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町との連絡は、施設開設時から相談をしたり、助言を貰ったりと連携が取れている。また、他市町村からホームの視察の申し込みが多く、町からの依頼があれば積極的に受け入れに協力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等に施設の状況をしっかりと伝えることで、家族から意見や要望、不満等が出てくることを理解している。家族等の面会時をとらえ、ホームの近況や本人の健康状態、金銭管理等、説明や報告をしている。また、面会が少ない家族には、ホームの便りや本人の日ごろの暮らしの写真、近況などを伝えるものを送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に、苦情窓口や第三者委員等の相談体制の説明を行い、面会時にも繰り返し意見が出やすいように話しをしている。面会時に家族とゆっくりと向き合う時間を取り、意見等を聞きだす工夫をしている。出された意見や要望には迅速に対応し、返事や回答をすることにより、信頼関係を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長や管理者は、馴染みの関係が大切であることを認識しており、職員全員にも伝わっている。異動に関しても最小限に留めることを考えており、利用者が混乱しないように、スライド方式にして工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修が、段階を踏まえて計画的に実施されている。ファースト研修、セカンド研修、フォローアップ研修、中堅研修、リーダー研修、管理者研修等、職員全員が受講となるシステムにしている。 多くの職員が研修に参加できるよう、職員の配置にも配慮がされている。更に研修報告書や報告会の開催と教育にしっかり取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で、毎月1回、グループホーム会議を開催し、運営や制度、リスク、ケアの質の向上、地域密着型サービスとしての地域住民との交流等を協議して、自分の施設運営に反映させている。また、グループホーム連絡協議会に加入しており、協議会の中で交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスに通って来る人が、利用者になることが多く、日常的に行き来が出来ているので、スタッフや利用者と一緒に馴染むシステムになっている。また、他の入居希望者にも、お試し通いやお泊りも受けており、入居前から施設的环境や雰囲気に少しでも慣れる事で、本人や家族も安心して入居することが出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的な生活の中で、家庭的な雰囲気が随所に出ている。また、全職員に、「生活の連続性を大切にする」こと、「本人が地域の中で、その人らしく暮らし続ける。」ことが周知徹底されている。共に過ごし、学びそして支え合うことを日々の生活の中で実践し、喜怒哀楽を共有する関係を目指している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いの把握には、カンファレンスに本人や家族に参加してもらい、意向や要望の把握に努めている。職員全員が、常に本人がどう暮らしていきたいのか、今日をどう過ごしたいかのを把握することに努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者一人ひとりに担当の職員を決め、その担当職員が、モニタリングをし、介護支援の原案を作成している。それを毎週行われるミーティングで、職員全員で話し合い、意見を調整しながら介護支援専門員が介護計画を作成している。また、家族の意見や要望は、面会時やケアカンファレンスを通して聞き出し、計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは定期的実施しており、細かい具体策については本人の健康状態、日々の生活の変化を見極め、現状に即した見直しを臨機応変に行っている。家族への説明、報告を必ずしており、同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的な散歩や買い物、その他本人の趣味、趣向に合わせた支援を実施している。そのほかに、本人の希望に答え、ドライブや美容院、かかりつけの医者、自宅への訪問等多様な、支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、ホームの主治医のことを分かりやすく説明しているが、本人や家族の希望を重視し、今までのかかりつけ医の受診も認めている。その際は、かかりつけ医との連携を積極的に図っている。また、ホームが定期的に行っている往診や受診時の情報の提供や薬の管理も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合のことを「重度化における対応指針」を持って分かりやすく説明している。また、契約書を交わすときに、本人や家族に「事前指定書」と言う書類で終末期の意向の確認を取っている。更に、実際必要となる場面では、カンファレンス等で再確認をし、何度も協議し、現状の情報交換しながら、向かうべき方向性をお互いで確認し合っている。家族の同意書を取っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームそのものが、プライバシーを重視した設計になっており、一人になれる場所や数人、そして全員が集える共用スペースが3箇所ある。また、職員の接遇や守秘義務等の研修も実施され、職員のことば掛けも優しく、ゆっくりしており、丁寧である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの生活リズムに合わせることや、その日に本人がやりたいことなどを把握し、日々その人らしい暮らしの支援をしている。併設のデイサービスのレクリエーションを紹介したり、散歩や買い物、喫茶店、ドライブなど、本人の希望を聞きながら、日中の過ごし方を選択している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域密着型サービスを考えた暮らしの場面として、食事の準備や後片付け等、利用者の能力アセスメントにより、その方のやれる力を活かし、職員と一緒に楽しみながら行っている。特に誕生日会やお祭り、クリスマス等の行事食については、本人に意向を聞き、助言をしながら利用者とともに決定している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週2～3回のペース、時間は16時～20時までと、利用者の希望により随時利用できる。また、介護度の高い利用者は、併設のデイサービスの特殊浴槽(ウイラーバス)を利用しており、どちらでも、ゆっくりと入浴を楽しむことが出来ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの周りに、梅畑や野菜畑があり、また、ベランダには、色とりどりの花が咲いているプランターがある。農作業や園芸をやる人が楽しみながら職員と共に行っている。また、ホーム内では食事の準備や後片付け、更には清掃、ボランティアと一緒にする作業等多様な役割を出来る人が行い、張り合いや喜びを感じながら行える支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周りはベランダになっており、利用者の居室から自由に入出りができ、また、濃尾平野が一望できる屋上やデッキへ通じている。また、家族と一緒に外出をするときや毎回の買物や散歩、喫茶店等には職員と一緒に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室、門扉等日中は、鍵を掛けていない。帰宅願望の人や徘徊のある人等は、行動アセスメントを実施しており、家族と話し合いながらリスクを少なくしている。また、帰宅願望の人には、強制的に連れ戻すのではなく、本人の納得するまで職員がついて行くことにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力を得て、年2回の防災訓練を行っている。地域密着型サービス制度で地域住民との交流が基本であることから、4月の訓練に、地元区長や地域住民の代表者の参加があり、避難訓練等、実際に想定した訓練をしている。	○	更に1つ上のサービスの提供に向けて、広く地域住民へ防災訓練の参加を呼びかけ、地域ぐるみでの訓練を実施されることを希望したい。加えて、防災備蓄品(水、3日分及び乾パン等)を貯蔵しておき、防災訓練ごとに入れ替えをされることも合わせて期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、全て栄養士が作成している。常にバランスの取れた食事の提供がされているが、食べ残しがあればその効果も半減することを職員は理解しており、毎食後、主食、副食の摂取量を確認し、パソコンでグラフ化し、スタッフの誰もが、一目でその人の摂取状態が分かるようになっている。水分量も同じように確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースが3箇所あり、また、中庭やベランダ、屋上、デッキ等々、何処を選んでもゆっくりと寛げる広い空間になっている。ホームの周りには、桜の名所の公園が歩いてすぐのところであり、また梅畑や季節の花が咲いている花壇やプランターなど自然がいっぱいで、季節ごとの風景を楽しめる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	インテリア性のある輻射式冷暖房機が、過ごしやすい空間を演出している。ここにも「生活の連続性を大切にする」と言う、心が活かされており、利用者がそれぞれ馴染みの家具等や調度品家族の写真などを持ち込み、居心地よいものになっている。各部屋からは自由にベランダに出入りが出来る。		